

白浜レスキューネットワーク通信 9月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

9月1日～9月30日

メール相談 4人

保護件数 2件2名(男性2名)

帰宅件数 2件2名(男性1名、女性1名)

- 3日、8月からしばらく滞在した女性が帰宅。
- 3日、男性を保護。家に一度帰ることに。
- 15日、男性を保護。ギャンブルで家族に迷惑をかけ、縁を切られ、追い出されたという。

生活自立支援活動

9月1日～9月30日

滞在者数 14人(男性10人、女性4人)

- 昨年10月に保護した80代女性は、あと一年ほどここにおらせてほしいとのこと。昔に自分を取り戻しつつあると感じているようだ。
- 4月から始めた高校で勉強していた20代男性は結局帰って来なかった。本人とは連絡が取れず、父親が本人の後始末をして回るので、本人のためにならないと忠告したが駄目だった。月末まで様子を見たが、与っていたお金を父親のところに現金書留で送った。
- コンビニとまちなかキッチンで働く20代女性は、疲れが出ている様子。疲れると人と会うことが辛くなるため、食事が不規則になるのでちゃんと三食食べるように、本人と話し合い、特例処置で乗り切ることにした。
- 80歳の男性は、昨年に引き続き気温が下がってくると体の動きが悪くなってきた。少し生活しづらくなってきた。
- まちなかキッチンで訓練を受けている30代男性は、10年前から連絡を取っていなかった友人との関わりが再開した。
- まちなかキッチンで訓練を受けている40代

男性は、メンタルクリニックに通い、躁鬱の薬を飲み始めた。臨床心理士の森崎先生にも週一でカウンセリングをしてもらった。

○惣菜部門で訓練を受けている女性は、11時就寝を続けている。

○リハビリ期間が終わった男性は、引き続き、毎日、ストレッチ、歩行訓練を繰り返している。胸の苦しさを訴え病院にかかった。

○ホテルに勤める40代の男性は、暇だった夏休みを取り返す勢いでがんばっている。

○昨年10月に近所のアパートに引っ越してきた女性は、9月29日、家で倒れているところを発見し、119番通報したが間に合わず、天に召された。10月1日にお別れの時を持った。

○明誠高校和歌山白浜SHIPで学ぶ高校生は、まちなかキッチンでの仕事に慣れて来た。しかし、すぐにできると思って失敗するので、その点を改善するため取り組んでいる。

○7月から共同生活に加わった50代男性は、農業に携わりながら、だんだん落ち着いて来た。新聞配達の仕事を始め一カ月働ききることができた。

○60代の男性は、糖尿病のために病院にかかりながら、目の具合が悪いので眼科にもかかり、眼鏡を作ってもらうことになった。

○40代女性は、親からの自立を果たすために、前向きに取り組んでいる。

自殺予防活動

・相談電話

6日、13日、20日、27日と行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。